

2020年1月号

1月15日(水)発行

釧路湿原国立公園

温根内ビジターセンター

月刊 温根内通信 No. 280



薄雪の年末年始…

明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願いいたします。
雪不足の知らせが伝わってきます。ここ釧路地方も例外ではなく、大晦日に雨が降り、ほとんどの雪は一旦解けてしまいました。その後も雪はうっすら積もっては解け…を繰り返しています。動物や鳥たちは元気な姿を見せてくれますが、冬のイベントを迎えるのには少々心もとない新年です。

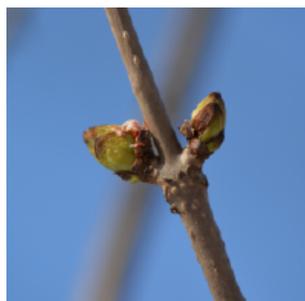
☆☆☆温根内ビジターセンター周辺の自然情報☆☆☆



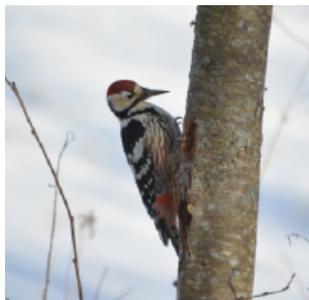
～温根内ビジターセンター周辺の自然～



【ツルウメモドキ (実)】
ニシキギ科 蔓梅擬
他の樹木に絡まって伸びる
蔓性植物。赤い仮種皮がいつの間にかなくなっており、鳥たちに食べつくされたのかもしれない。



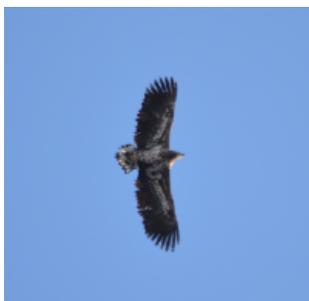
【エゾニワトコ (冬芽)】
ガズミ科 蝦夷接骨木
冬芽が早くもほころび始めているように見えます。本種の冬芽は葉の芽(葉芽)が花芽を覆った「混芽」という形態を持っています。



【オオアカゲラ】 留鳥
キツツキ科 大赤啄木鳥
VCの周りなどで最近よく見かけるようになりました。オスは頭頂部が赤いのが特徴です。(アカゲラのオスは後頭部のみが赤い)



【カシラダカ】 旅鳥
ホオジロ科 頭高
VCの近くで1羽だけ確認できました。春先や冬の始めに通過していく旅鳥。弱い声で「チッ」という地鳴きを発していました。



【オジロワシ】 冬鳥・留鳥
タカ科 尾白鷲
上空を旋回している時があります。写真の個体は尾が完全には白くなく、若鳥と思われる。冬の青空を飛ぶ姿はやはり圧巻です。



【エゾリス】
リス科 蝦夷栗鼠
このあたりでは滅多に見かけないエゾリスを捉えました。木の枝でじっと動かず、「ぬいぐるみ？」と疑ってしまうほどでした。

○温根内探勝木道周辺で観察された鳥（12月15日～1月14日）和名は日本鳥類目録第7版の順
 ■タンチョウ■トビ■オジロワシ■オオワシ■ノスリ■コゲラ■オオアカゲラ■アカゲラ■クマガラ■ハシボソガラス
 ■ハシブトガラス■ハシブトガラ■シジュウカラ■ヒヨドリ■エナガ■ゴジュウカラ■キバシリ■ツグミ■マヒワ■ベ
 ニヒワ■カシラダカ

※旬の自然情報についてはお気軽にスタッフまでお尋ねください。

※温根内木道周辺の植物を折ったり持ち帰ったりしないようお願いします。また、木道から降りて写真を撮ることはおやめください。皆様が気持ちよく散策・観察できるようご理解とご協力をお願いします。

☆☆☆ トピック 自然の記録を可視化してみる② ～野鳥編～ ☆☆☆

職員が蓄積した自然観察データを可視化する試み、第2弾は、野鳥の観察データを少し見ていきたいと思います。野鳥の観察記録の取り方は色々ありますが、私の場合の観察方法は、木道の巡回中に歩きながら確認・記録をつけ、その野鳥を「姿を見た(V)」「囀りを聞いた(S)」「地鳴きを聞いた(C)」などをメモしていきます。例えば、



ハシブトガラの囀りを聞いてその姿も確認したなら、「ハシブトガラSV」とメモ帳に書かれています。ではこういったデータをどんどん蓄積していくと、何かわかることはないでしょうか？

そこで今回は、過去約3年間のデータから、代表的な種を「どのように確認しているか」ということを表す円グラフを描いてみました。

- ・鳴声のみを確認（今回は囀りと地鳴きを区別せず集計）
- ・姿のみを確認
- ・鳴声と姿両方を確認

という3つの確認手法に分けた時、種ごとでどの手法で確認することが多いかがわかるかと思えます。

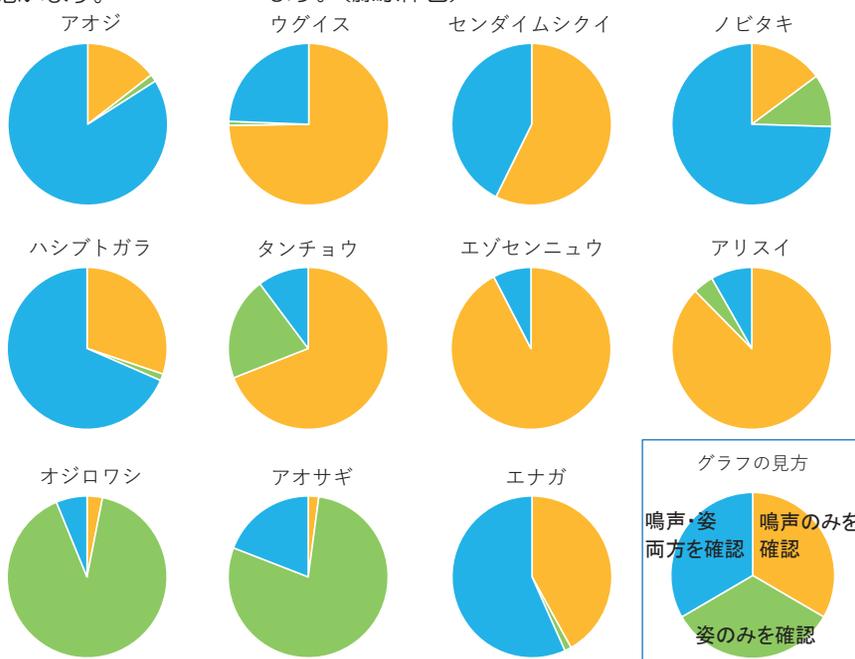
右のグラフを眺めていて皆さんは何か気づくことはありますか？色々な情報を示していると思います。

1つは、タンチョウやオジロワシなど、大型の種ほど「姿のみを確認」が多い（＝グラフの緑色のエリアが大きい）、ということがわかりますね。それだけ存在がはっきりしているから、とも言えそうですし、姿を見ることでしか存在が認識できない、ということも示しているのかもしれない。

逆に、小型～中型の種は、姿のみで確認することはあまりありません。

自分自身の観察している時を思い出すと、まず鳴声を確認して、その鳴声の聞こえる方向を双眼鏡で探す、

あるいは、姿を確認した時に同時に鳴き声も聞き取れる、という場合が多いように思います。また、例えばアオジとウグイスを比べても随分グラフの様子が違います。アオジは遊歩道沿いなどから出て来たり、頻りに姿が見られ、かつ鳴声もよくわかります。その点ウグイスは、鳴声ははっきりしていますが、姿を捉えるのは難しいですよ。アリスイやエゾセンニュウにいたっては、ほとんど姿を見かけることがありません…。「鳴声と姿両方を確認」できる場合が多い（＝グラフの青色のエリアが大きい）種は、行動を観察する対象として優れていることを表しているように思えます。また、鳴声でしか存在が認識できない（＝グラフの黄色のエリアが大きい）種は警戒心が強かったり、目立たない見た目をしている、と考えることができそうです。こういった種ごとの「生態」についても、グラフからうかがい知ることができます。このほかにもデータをもっと詳しく見ていけば、わかることが隠れていると思います。今回は囀りと地鳴きを区別しませんでした。区別したらグラフがどう変わるのかも知りたいところです。1つの種でも時期によって確認手法が変わってくることも予想されます。そういったことも加味して、今後も可視化を試みたいと考えています。（藤原伸也）



☆☆☆☆ 釧路湿原 関連施設紹介 ☆☆☆☆

【塘路湖エコミュージアムセンター ～冬編～】

塘路湖エコミュージアムセンターの中野といいます。塘路湖は温根内とは逆側、釧路湿原の東側に位置し、釧路湿原で最大の面積を持つ海跡湖です。周



大迫力の御神渡り
(2019年1月)



満開のフロストフラワー

辺には釧路川が流れているほか、シラルトロ湖をはじめとする湖沼が点在するなど、水環境あふれるエリアとなっています。この度、温根内通信に数回に分けて塘路湖周辺の紹介をする機会をいただくことになりました。第一回目の今回紹介するのは、冬の塘路湖です。

塘路湖の冬の風物詩と言えば、氷が生み出す様々な光景。湖面から氷がせり上がる「御神渡り」は、自然の力の偉大さを感じさせてくれる驚異の現象です。今年の冬は気象条件に恵まれず、ほとんど発達していませんが、昨年は高さ1mほどにも達する巨大なものが出現しました。さらに、湖上に咲く華「フロストフラワー」や木が真っ白になる「霧氷」など、御神渡りの他にも真冬の塘路湖は見どころが盛りだくさん。特によく晴れて気温が-15℃を下回るような寒さ厳しい朝は絶好のチャンスです。万全の寒さ対策をした上で湖畔を歩くと、氷が作り出す神秘的な光景の数々に出会えます。



冬は凍った湖上を歩けます



霧氷で真っ白なヤチダモ

塘路湖エコミュージアムセンターまでは温根内ビジターセンターから車で約40分。
【開館時間】10:00～16:00(4月～10月は17:00まで) 【休館日】毎週水曜日
皆さんぜひ、遊びに来てください!

☆☆☆☆ イベントのご案内 (2月) 事前の申し込みが必要です☆☆☆☆

○温根内ビジターセンター ⇒お申し込み ☎ 0154-65-2323

♪初めてのスノーシューハイク

〔日時〕2月16日(日) 10:00～12:00 〔定員〕10名(小学生は保護者同伴)
〔参加費〕無料 〔場所〕温根内ビジターセンター

スノーシューってどんなの?初心者でも安心して参加できます。スノーシューをまずは履いてみて、雪に覆われた釧路湿原を歩いてみましょう。

○塘路湖エコミュージアムセンター(あるとこ) ⇒お申し込み ☎ 015-487-3003

♪釧路湿原フィールドウォッチング

〔日時〕2月8日(土) 10:00～12:00 〔定員〕15名(小学生は保護者同伴)
〔参加費〕無料 〔集合場所〕シラルトロ自然情報館駐車場

～木道工事を行っております～

現在、老朽化の進んだ木道について改修工事を行っております(～3月27日までの予定)。ビジターセンターからの木道の通行はできませんので、ご了承ください。



月刊 温根内通信 No.280

発行：釧路湿原国立公園 温根内ビジターセンター

〒085-1145 北海道阿寒郡鶴居村字温根内

Tel: 0154-65-2323 Fax: 0154-65-2185

E-mail: ovc@hokkai.or.jp

ホームページ: <http://www.kushiro-shitsugen-np.jp/>

Facebook: [温根内ビジターセンター フェイスブック](#)

開館時間: 9:00～16:00(4月～10月は17:00まで)

休館日: 毎週火曜日(12/29～1/3は休館) 入館無料